



野口小学校だより

チーム野口

～「自主・自律」の心を育てる～

本校 HP QR コード



国語

成果が見られた力

学年別配当漢字は「よく定着している」という結果が出ています。そして、本校が注力する「書く力」の育成においては、「文章を読んで考えたことを経験と結び付けてまとめて書く」記述式問題で成果が見られました。「友達との話し合い」を通して自分の考えを深める加古川型スマート探究学習や学習の振り返り、お礼の手紙等の「書く」活動が、表現力の着実な向上に繋がっていると考えます。

これから伸ばしていきたい力

一方で、全国・県と同様に、「集めた情報から抜き出して考えが伝わるように書く」力には、課題が見られます。

今後の学習指導においては、全ての情報を書き出すのではなく、必要な情報を引用し、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫できる思考・判断・表現の力を身につけさせたいと思います。また、こうした指導を国語科だけでなく、他教科でも継続的に取り入れることで、相手や目的に応じて論理的に表現する力を着実に培ってまいります。

算数

成果が見られた力

「1、5、9の3枚のカードを当てはめてできる最も大きい数をつくる」「昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、『前半』に使える時間は何分かを書く」問題がよくできていました。そして、「 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ のどちらが大きいかを判断し、そのわけを書く」問題では、本校が国語をはじめ様々な場面で注力している「書く力」の向上により、「数学的な考え方を説明する力」も着実に伸びていることがわかりました。日頃からの「書く」活動が、算数の記述問題においても、確かな表現力として生かされつつあります。

これから伸ばしていきたい力

帯グラフから割合を読み取ることはできていました。しかし、ペンギンがいる広場の混み具合を考える「単位量当たりの大きさの意味（混み具合）の判断」や赤いテープの長さが白いテープの長さの1.5倍になっている図を選ぶという「割合の関係を表す図の選択」についての正答率が低かったです。

このことからまず、「割合」という既習事項の定着を図ることが、本校の喫緊の課題であると考えます。その上で、2つの数量の比べ方を考え、図や式を使って筋道を立てて説明し、日常生活の問題解決に活用する力にまで到達させる必要があると捉えています。ICTを効果的に取り入れた視覚的な工夫や考えの共有を取り入れながら、学びの獲得に向け、活動の一層の充実を図ります。

令和8年度全国学力・学習状況調査および調査結果について

令和8年度全国学力・学習状況調査および本校の調査結果についてお知らせします。
今後、この結果を鑑みて下記の通り、取り組んでいこうと考えております。
保護者の皆様におかれましてはぜひお目通しいただき、引き続きご支援・
ご協力のほどよろしくお願いいたします。



児童質問紙調査の結果

※回答率(%)は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせたもの

【本校児童が肯定的に回答し、割合の高かった設問】

質 問 内 容	本 校
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	97.3%
友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	94.6%
友だち関係に満足している。	91.9%
学校に行くのが楽しいと思う。	91.3%
自分にはよいところがあると思う。	89.3%
普段の生活の中で幸せな気持ちになる。	92.6%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	94.0%
人が困っているときは進んで助けている。	96.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.0%

児童は、友人関係の構築や周囲への貢献に対して前向きな意識をもっています。良好な人間関係を基盤に、互いに協働しながら学校生活を送ろうとしています。また、他者を思いやり社会に貢献しようとする姿勢が育ってきています。これは、日々の学校生活の中で児童の主体的な活動を応援し、学級活動や児童集会等でお互いを認め合える機会を設定してきた成果だと思われます。また、ミシンや図書、登下校の見守りなど、地域ボランティアの皆様との交流も児童の健全育成につながっていると考えます。

このような、お互いを認め合える温かみある学級の雰囲気は、落ち着いた学習環境をもたらします。5年生までの授業を振り返る調査において、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した児童は70.5%で、国や県と比較しても非常に高い傾向にありました。日頃から取り組んできた「自分の表現を温かく受け入れてもらえる学級づくり」の中で、児童は自己有用感を高め、主体的に考えて発信する力を着実に伸ばしていると考えます。

「平日授業以外の勉強時間」の調査では、「1時間以上勉強している」と答えた児童が51%と約半数にとどまりました。県の調査においても50.3%と、5年前の調査より10ポイント以上低下したと報道されています。一方で交流サイト(SNS)などに割く時間は増加傾向にあり、国も「この傾向を注視する」としています。なお、授業時間以外の読書量調査では、「1日30分以上読書している」児童が22.8%と、国や県の平均と比べて低い傾向にあります。その現状をふまえ、本校では、昨年度から加古川市の電子図書館による「読み放題」の利用をはじめ、図書ボランティアによる環境整備、集会での本の紹介、テーマごとの絵本展示など、児童が自主的に読書に親しみたくなるような環境づくりを進めているところです。

今後はこのような読書推進活動を継続するとともに、家庭ともしっかりと連携しながら、日常的な家庭学習習慣や読書習慣の定着を目指していくべきと考えております。